

平成21年度 京都府立東舞鶴高等学校浮島分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

平成22年3月4日版

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 学びの場としての授業形態の展開と、基礎・基本を重視した学習指導の実践。</p> <p>2 生徒とのコミュニケーションを大切に、生徒理解を深め、個に応じた指導・助言ができる体制づくり。</p> <p>3 生徒が満足する学校生活（教育活動）の推進</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語検定試験に挑戦する生徒や、校内漢字検定において、「漢字名人」を目指して意欲的に学習する生徒が増えた。 ・生徒とのコミュニケーション（対話）を大切にすることで、問題行動等も減少した。 ・きめ細かな進路指導により、就職内定率がアップした。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が集中できるような授業内容、方法等のさらなる工夫。 ・生徒指導において、いわゆる一般常識に欠ける部分の指導の徹底。 ・1年次における原級留置・中途退学に対する対策。 	<p>1 「確かな学力」をつけさせるための教科指導の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本の定着を目指した授業（わかる授業）を実践する。 (2) 教育内容を精選し、教材の創意工夫を図る。 (3) 校内漢字検定を起爆剤とし、検定試験や資格取得へのチャレンジを促す。 <p>2 こころ豊かな生徒を育てる生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の理解を深めるための面談、家庭訪問の実施。 (2) 教育相談の研修。 (3) 日頃から生徒との対話を重視した指導の実践。 <p>3 生徒が楽しいと感じる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒全員が参加・関わるができる学校行事にするための内容の工夫。 (2) 生徒会活動、部活動の活性化を図り、学校への帰属意識を高める。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
管理・運営	「学びの場」を意識した学校づくり	生徒個々の学習状況や能力を把握し、目標を持たせる授業の実践。	C	<p>各教科で学習状況に応じた授業の展開を工夫し実施してきたが、成果を上げるまでには至らなかった。</p> <p>本年度は、文化祭を中心とし各学年とも積極的な取組を行うことが出来た。</p> <p>いろんな機会を利用し、定時制の役割について理解してもらうことができた。</p>
		「自分で考え、行動すること。」を基本とした授業実践の工夫改善。	C	
開かれた学校づくりの推進	学校行事への積極的な参加を促し、学校の楽しさを味わわせる。	B		
	各関係機関・生徒の出身中学校・地域との連携を深める。	B		
		保護者・中学生への授業公開や、文化祭等を活用し教育活動をアピールする。	C	
教務部	原級留置・中途退学の防止	日々の職員集会での「気になる」生徒の情報交換を基に、学習および生活状況を職員全体で共通認識し、適切な指導にあたる。 家庭連絡、家庭訪問等で保護者との連携を密にし、原級留置・中途退学に繋がる欠席・欠課・遅刻の防止に努める。	C	<p>共通認識に立った指導ができた。だが、有機的な展開には至っておらず、1,2学年での退学、休学、長欠が防げていない。</p> <p>実施方法の改定により、校内漢字検定合格への意欲を高められた。</p>
	校内漢字検定の活性化	意欲に停滞傾向が見られる校内漢字検定の実施方法を見直し、合格率を上げる。検定試験や資格取得の挑戦にも繋げる。	B	
生徒指導部	問題事象の減少に向け取り組む	複数教員で適宜校内を巡回する。	C	<p>喫煙の問題など課題があるが、おおむね生徒や学校は落ち着いてきている。副校長先生をはじめとする先生方の協力が得られ、指導ができたと思う。今後は、公共性を身につけさせるとともに規範意識の高揚に努めたい。</p>
		利己的でなく公共心や奉仕の精神をもった生徒を育成するために、清掃活動やボランティア活動を定期的実施する。	C	
		すさみや荒れを生まない学校環境の形成に努める。	C	
	各関係機関との連携	警察等と適切に連携し、問題行動の未然防止に努力する。	C	

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導部	個々の生徒の学習状況や能力に即した進路指導	進路面談を綿密に行うことで、明確な進路目標を持たせる。また、できるだけ具体的な人生の方向を示すことで、効果的な進路指導を行う。	C	B 1 進路面談を適切に行い、進路目標の達成も含め、一定効果をあげることができた。 2 ハローワークと積極的に連携し、生徒の進路実現に貢献できた。 3 通常の進路指導に加え、夏季就職試験対策講座を実施した。
	4年次の進路指導	進路面談を効果的に実施し、正社員就職や希望する進学につなげていく。受験対策として、面接指導、学習指導をさらに徹底させる。	B	
	関係機関との連携	日常的にハローワークと連携をとり、在学生徒の就業指導や4年次の就職指導を行う。	B	
人権教育部	基本的人権の精神を高める指導	人権意識を高め、行動につなげ、豊かな人格を形成する。	C	C 1 人権意識の向上という点では課題が残った。 2 修学援助は事務部と人権教育部が密に連携し、一定実現できた。
	適切な修学援助	困難な条件を持つ生徒の修学援助をさらに徹底し、希望の進路実現を達成する。	B	
保健部	食育基本法に基づく取り組み	教科（保健体育）と連携をし、食事の大切さを教え、給食の喫食率をあげる指導を行う。	C	B 給食を摂るよう指導したが、喫食率の向上には繋がらなかった。機会あるごとに予防接種の指導を行った結果、ほとんどの生徒が接種することが出来た。
	麻しん予防接種への取り組み	今年度満18歳の生徒だけでなく、全校生徒に対して呼びかけを行い接種率を上げる。	B	
1学年	原級留置、休学・退学の防止に向けた指導	生徒の様子を把握し、欠課過多・成績不良・授業態度不良者等に対し、本人に声掛けや面談等を行う。家庭への連絡を密にし、家庭との連携を図る。	C	B 生徒への声かけや面談等をおこなったが、結果的に4名の休・退学者を出した。これからも尚いっそうの声かけや面談等の必要を感じた。クラスの美化に関しては全体的には衛生的に保たれていた。
	授業に集中できるクラス作り	各教科担当者との連携を密にし、授業の様子等を聞き、細かな所まで指導し改善を図る。	B	
		----- クラスの美化に努め、各自教室内にゴミを出さないよう、机にゴミ袋を掲げるなど学習しやすい環境を作る。	B	

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
2 学年	学習環境の改善と維持	生徒それぞれの課題を把握し、その改善を促し、クラスの学習環境向上につなげる。	B	B	文化祭や HR の取組などで、できるだけ生徒自身でやらせるようにし、以前よりも達成感、自信を持たせてやることができた。 本年度入学生で、2 名の休・退学者が出たのが残念だ。
	原級留置、休・退学の防止に向けた指導	進級・就学に対して意欲を喚起する内容の話や取り組みを行う。また欠席等が多い生徒に対しては家庭と連携し、その改善に努める。	C		
3 学年	自己目標の設定	年間・学期間・月間における目標を設定し、計画的な学習及び学校生活ができるよう指導する。	C	C	欠課時数を気かけなければならぬ生徒が多数いたが繰り返し注意、指導することで進級を脅かすまで増えることはなかった。 授業中の態度（特に私語）を学校全体で指導していったが、改善することができなかった。
	生活リズムの構築	原級留置や休学・退学防止のために、生活の改善を図るとともに家庭との連携を強める。	C		
4 学年	4 年生としての目標の設定を図る。	4 年生であるという自覚を持ち、毎日を充実した張りのあるものにするために、日々の目標を設定する。毎日の登校に意義を見出せるような学級経営を目指す。 大人としての自覚を実践するための一定の義務を、普通に果たせるよう指導する。社会的ルールの遵守を始め、一社会人としての常識を身につける。出来ることから確実にやっていく。	C	C	13 名でスタートしたが、各自それなりに頑張ったのではないか。個々の努力内容にかなりの差はあったものの、特に終盤においては、大人としての自覚が全般に出てきたように思う。 進路未決定の生徒もいるので、今後も引き続き連絡を取り合い、指導していきたい。
	全員卒業に向けての指導。	最終学年の重みと意義を自覚させ、来春に向けて今やるべきことは何かを常に考えさせる。 保護者とも連携を深め、4 年生としての成すべきことの優先順位を共に考え、生徒の支えになれるよう努力する。	B		
教科担当	自ら学習に向かう授業展開	自学自習プリントを準備し、「考えてみる」学習を取り入れる。また、ステップアップ式の演習プリントも準備し実力の伸長を図る。	B	C	各教科ともプリントや視聴覚教材を利用し工夫を図ってきたが、十分な学力の向上には至らなかった。 これからは、社会に出て通用する学力の充実も考え、取り組みを進めていきたい。
	人間の在り方・生き方の指導	生きていくために必要な国語的「実学」や生きる知恵や指針を身につけさせるために身近な教材を準備し興味ある授業展開を心がける。	C		
	資格取得に向けた学習	英語検定等の資格取得に向けた学習環境を整え、個々の実力に応じた指導の実践。	C		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
I T 情報	I T 機器の活用	プロジェクターやパソコン等を使った視覚学習や行事等の推進。	C	C	視覚学習については教室等の整備が整っていない状態であった。行事等のサポートやパソコンのアドバイス等はほぼできたのではないかと思う。
	情報機器の管理とサポート	校内LANやパソコン等に異常があればすぐに対応する。パソコン操作上のスキルに対しアドバイスをする。	B		
部活動	近畿大会・京都府大会に向けた取組	耐震工事のため体育館が閉鎖となる前半期においては、学外での活動場所を確保しながら、基礎技術の習得に重点をおき、活動の継続を図る。	A	A	体育館の関係で練習不足ではあったが、各部活動とも活躍できた。特に女子円盤投げ全国優勝は、評価に値する。
次年度に向けた改善の方向性	近年、多様な生徒の入学が増え、クラス内でも学力の差が著しく大きくなってきた。特に、本年度は2年生数学において、2学期から授業が空いている教員が加わりT・Tの授業に取り組んでみた。結果は、あまり期待できるものではないものの手掛かりはつかめた。次年度は、関係機関等とも協力した取り組みを進めたい。				